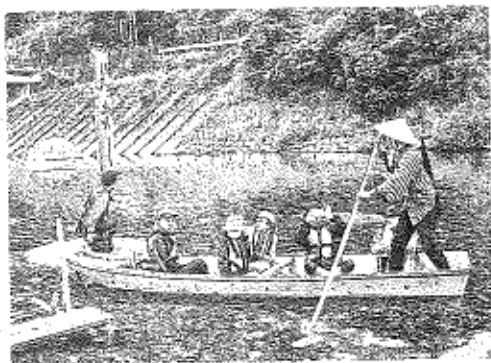


古の旅人のように舟渡し

銚子川沿いの古道を行く



銚子川を舟で渡る

世界遺産に登録されてい
ない古道をたずねるツアー「紀北町の知られざる熊野古道を歩こう」が10日、銚子川周辺で開かれた。参加者約30人が舟渡しを体験し、熊野峠に向かう発掘石畳を歩い

た。

くまの体験企画による「紀伊半島みるみる探検隊」の熊野古道世界遺産登録10周年記念企画の第2弾。相模や伊豆山から馬越峠に向かうために、かつて銚子川には渡し場が3か

所あり、登り口まで石畳が整えられていた。銚子川の船渡しはNPO法人のふるさと企画舎がイベントとして実施していることもあり、今回は節目を記念して舟渡しを復活させた。

や下流で行われた。参加者は半々に両岸に分かれ、往復する船に乗り、舟渡しを体験した。種まき権兵衛の格好をした船頭が川底を竿で押して船を進んだ。参加者が船に乗り込む際、渡し員として

桶に古銭を入れ、出船時には鐘を鳴らして、かつての舟渡しの雰囲気を作り出した。

舟渡しの後、井当で腰こしらえをした参加者は馬越峠を目指して歩き、麓下から国道42号へ向かう途中、住民有志が発掘した発掘石畳を歩いた。

また、銚子川付近にあるはまぐり石や法華塔、水神社などを見て回り、かつての川やまちについて説明を受けた。川に浮かぶカモ、大きなドンクリ、ク

サキなど川沿いの自然についても紹介があった。

くまの体験企画の内山裕紀子代表は「渡し場がどこにあるのか、ずっと考えてきたが、実際に自分たちでやってみて、天候や水量など川のコンディションによって臨機応変に対応していたのでは、と考えるようになった。世界遺産になってはいないが、貴重な道はまだまだあり、多くの人に知ってもらえかけなければならない」と話した。